

かほく市立高松中学校 学校便り
《校訓》「責任を果たせ 自主・協同・奉仕」

さわやか

□ メタ認知能力 もう一人の自分



第7号 令和7年11月4日発行

校長 塚田 秀和

11月の全校集会の話です。

例年より風邪の流行が早まり1年生の合唱コンクールは延期しましたが、学習成果発表会では、わずかな時間でしたが、高松中学校の仲間の素敵な学習成果に感動する時間を共有し、発表者をたたえる時間となりました。9月の運動会に続き、高松中学校の「全力」を感じることができました。

※ ホームページ(<https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/takami>)では、学習成果発表会の写真を掲載しています。

さて、2学期の始業式も話をしましたが、予測不可能な時代、未来を変えることに必要なのは、「学び続ける力」と「発信する力」だと思っています。「発信する力」については、学習成果発表会で見られたように、学校の学びで力をつけていくことが可能です。しかし、「学び続ける力」は、学習者の内面によるものだからこそ、難しいと思われます。

そのため、本校が取り組んでいる「高中スタイル」の授業では「学び続ける力」を身につけることも大切にしています。「高中スタイル」の授業とは、自分で学び方を考えて学習を進めるスタイルです。授業の最後にはクロムブックを使って、その時間における「学び方」を記しています。学び続けるためには、一旦立ち止まり、その時間の学び方がどうであったか考えることが大切だからです。この記録によって、どんな道（学び方）を経験して今日の授業に至っているのか、今日の記録や、他教科の学び方にヒントを得て、この先、どこへ進もうとしているのか、どんな学び方をすればよいかを考えることができます。つまり「高中スタイルの授業」は、過去、現在、未来をつなぐ、「学び続ける力」を身につけることになるのです。



授業の最後に、「学び方」の振り返りをしています。



この「立ち止まって考える力」を「メタ認知能力」といい、私は自分なりに「メタ認知能力」を「自分自身を俯瞰し、客観的に評価できるもう一人の自分をつくる力」と解釈し、今月のテーマを「メタ認知能力 もう一人の自分」としました。特別な力ではなく「もう一人の自分」は、身近によく現れます。いかに例を挙げます。

例1. 教科書を眺めても英単語が頭に入らない

[もう一人の自分] 何度も声に出して読んでみよう。例文を作った方が自分には合っているかな。

例2. 怒りで、冷静な判断ができない

[もう一人の自分] この感情に任せて行動すると後悔する。自分はどうして怒っているのだろう。

例3. 買い物中に、必要のないものが欲しくなる

[もう一人の自分] この服が欲しいのは、一時の感情だ。家に帰って本当に必要なら買いに行こう。

中学校を卒業した後は、それぞれの道ということは、3年生だけでなく、1年生も想像できるはずです。予測不可能な時代と言われるこれから、「未来を変える力」となる「学び続ける力」と「発信する力」について考えてみてはいかがでしょう。